

広報

# いちき串木野

2024. 1. 5 発行  
新年号

幸多き年になりますように！



謹賀新年





いちき串木野市長  
中屋 謙治

# 新年の ごあいさつ

## 新年あけましておめでとうございます

市民の皆様におかれましては、健やかに輝かしい希望に満ちた新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また平素より、市政に対し深いご理解ご支援ご協力を賜っておりますことに対し、年頭にあたり厚くお礼申し上げます。新年を迎え、愛する郷土"いちき串木野"を、未来に誇りをもって引き継ぐことができるよう、一段の躍進を期して、市政発展に邁進することをお誓い申し上げます。

### ■昨年を振り返って

我が国における人口減少・少子高齢化は本市においても急速に進行しており、中でも今後の社会機能の維持とまちの活力を考えた場合、最大の課題は少子化であると考えます。このため、令和5年度を「人口減少・少子化緊急対策元年」と位置づけ、これからの社会を担っていく「子どもや若者」を中心とした施策に重点的に取り組んでまいりました。少子化対策として、0～2歳児の保育料の無償化をはじめ、結婚活動支援補助金などの若者

の出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまで、それぞれの段階におけるしっかりとしたサポートの充実と子育てしやすい環境整備を図っております。また、まちの魅力づくり、特色の磨き上げとして、薩摩スチューデント奨学プログラムの創設や特色ある多文化共生の施策を展開し、「このまちで子どもを育てたい」「住んでみたい」と選ばれるまちづくりに取り組んでいるところであります。

さて、昨年の本市の出来事を振り返りますと、1月には、全国高等学校サッカー選手権大会で神村学園高等部男子サッカー部が鹿児島県勢として14大会ぶり、神村学園としては16大会ぶりにベスト4まで勝ち上がり、サッカーの聖地国立競技場のピッチで神村学園イレブンが躍動しました。

3月には、本市で育つ子どもたちが安心して勉学に励むことができるよう、さらには薩摩藩英国留学生のように学校卒業後に本市に戻り活躍してくれることを願い、実質的に返済を免除する給付型奨学金制度となる薩摩ス



チューデント奨学プログラムを創設し、鹿児島相互信用金庫と連携協定を締結しました。

4月には、本市の春の風物詩である串木野浜競馬が4年ぶりに開催され、ポニーのかわいらしいレースやサラブレッドが砂浜を颯爽と駆け抜ける迫力あるレースに、市内外から訪れた多くの観客から大きな歓声が響きました。



5月には、市民と市職員で構成する「2040年のまちを考える会」が1年間かけて検討してきた事業プランの報告がありました。「産業・雇用」「子育て出産・教育」「高齢者・医療・健康・福祉」「地域・移住・定住」の4つのグループから提案された貴重な意見やアイデアを活かしながら今後も取り組みを進めてまいります。

6月下旬から7月初旬にかけて、本市の姉妹都市であるアメリカ・サリナス市との交流が4年ぶりに再開され、サリナス市からの訪問団（高校生9名、引率2名）が本市を訪れました。訪問団は市内の各学校で子どもたち



と交流を深め、また、市内事業所でさまざまな体験活動を行いました。引き続き交流を深めてまいります。

8月には、夏の甲子園で神村学園高等部硬式野球部が大活躍をし、鹿児島県勢として17年ぶりのベスト4進出を果たしました。準決勝の仙台育英戦では市民文化センターにパブリックビューイングを設け、選手たちの熱いプレーに多くの市民の皆さんとともに一生懸命に声援を送りました。惜しくも決勝進出は叶いませんでしたが、多くの勇気と感動を届けてくれました。今後のさらなる活躍を期待しています。

10月には、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていた「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」が開催され、本市総合体育館で成年男子バレーボール競技、少年女子バスケットボール競技、車いすバスケットボール競技が行われました。選手の皆さんの迫力ある熱戦を一目見ようと、多くの観客が訪れ、大会役員やボランティアの方々の協力をいただきながら、「国体」と名の付く最後の大会を大いに盛り上げてもらい、無事終了することができました。



11月には、荒川地区で、「大雨による土砂災害の危険性が高まった」と想定した総合防災訓練を実施しました。住民参加型の心肺蘇生・AED取扱訓練や消防隊員による倒壊家屋救出訓練、炊き出し訓練など、実戦しながら

の有意義な訓練が行われました。災害は今や、いつ、どこで、どんな形で起こるか予測が付きません。本市においても常に危機意識を持ちながら、引き続き災害に備える体制強化に努めてまいります。

12月には、京都市で開催された第35回全国高校女子駅伝において、鹿児島県の代表である神村学園がすばらしい快走を見せ、5年ぶり2度目の優勝を果たしました。選手全員でたすきをつなぎ、最後まで諦めず、ゴール前での大逆転という結果に大きな感動と勇気をいただきました。



こうして振りかえってみると、市民の皆様の「まち」への想いと行動が、人をつなぎ、地域を支えていることを改めて実感する一年であったと思います。

これからも、この地にある素晴らしい自然環境や人のつながり、先人が築いてきた地域の伝統、文化など価値ある貴重な資源や特性に磨きをかけ、地域の発展を目指していきたいと考えております。

#### ■新年を迎えて

令和6年を迎え、何としても人口減少・少子化の流れに歯止めをかけ、未来を見据え、持続可能なまちづくりを進めていかなければならないと決意を新たにしております。

少子化対策は、その効果が現れるまでには一定の時間が必要であり、息の長い取り組みが求められます。「子どもは社会全体で育て

る」との観点から、子育て支援策の柱として、保育料の完全無償化や学校給食費の無償化、子ども医療費の無償化による経済的負担の軽減を図るとともに、放課後児童クラブやファミリーサポートセンターの充実のほか、長崎鼻公園リニューアル事業の推進など、さまざまな面からの子育て環境の整備を進めてまいります。また、少子化の大きな原因とされる若者の未婚晩婚化については、出会いの機会の提供とともに結婚を支援するさまざまな方策に取り組んでまいります。

さらに、「選ばれるまち」となり、人口減少に歯止めをかけるためには、我がまちの資源、強み、特色を磨き上げ、本市の魅力として最大限に尖らせていくことが大切であると考えます。海とともに栄え発展してきた我がまちの歴史を踏まえながら、資源を生かし、本市ならではの魅力・強みに磨き上げ、独自性のある活性化策を練り上げてまいります。市民生活・経済活動はコロナ禍から少しずつ回復しつつありますが、引き続き、エネルギー・物価高騰による影響を受け厳しい状況にあることから、国県の施策に呼応しながら対策を進めてまいります。

行政への需要が広範かつ多様化している中で、さまざまな分野における官民協力や地域間連携、政策間連携を図りながら、誰もが健康で心豊かな生活が送れ、次代を担う子どもたちのために、夢と希望に満ち、活気あふれる、いちき串木野市のまちづくりを市民の皆様とともに進めてまいります。

市民の皆様には一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって幸多き素晴らしい年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のあいさついたします。